



臨床発達心理士

Clinical Developmental Psychologist

一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構

日本臨床発達心理士会



一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構
日本臨床発達心理士会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-20-12 山口ビル 8F
Fax : 03-6304-5705 E-mail : shikaku@jocdp.jp
HP : <http://www.jocdp.jp/>

ごあいさつ



一般社団法人
臨床発達心理士認定運営機構
代表理事 **秦野 悅子**

現代社会において、私たちは生活する上で様々な問題に出会います。そのなかには、周りの人の助言があれば、比較的簡単に解決できる問題もあるでしょう。しかし、複雑化しつつある現代社会においては、一つの問題の背景には様々な要因が関わっており、問題の解決が必ずしも容易ではありません。また、同じような問題に見えても人の成長発達とともに、その問題自体が変化してしまうことがあります。したがって、人々が生涯発達の中で出会う様々な問題の解決に当たっては、まず問題そのものを理解する専門性が必要とされます。また、問題の正しい理解に基づき、適切な支援を行う専門性が求められます。そのようなニーズに応じる形で誕生したのが臨床発達心理士です。

臨床発達心理士を認定し、その知識・技術および資質の向上を目的として設立されたのが一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構です。この機構は、現在、日本発達心理学会、日本感情心理学会、日本教育心理学会、日本コミュニケーション障害学会の4学会の協力により運営されています。「発達的観点に基づき人の健やかな育ちを支援する」という理念に基づき設立された臨床発達心理士認定運営機構は、これまでに、3,800名に臨床発達心理士としての資格認定を行ってきました。また2009年度からは臨床発達心理士スーパーバイザー資格認定も行っています。このように常に組織や活動の充実を図りつつ、北海道から九州・沖縄までの20支部において、地域と結びついた臨床活動を展開しています。

また、東日本大震災など災害で被災した人々への支援、「障害」概念の変化に伴う適応という問題のとらえ直しなど、新たなニーズに対応するために、一層高度な専門性が求められるようになってきました。しかし、臨床発達心理士に求められる専門性は、アセスメントを含む専門的な技能だけではありません。むしろ、人とかかわるとはどのようなことか、人を支援するとは何をすることなのか、支援が成功したとは何をもって判断できるのかといった、いわゆる自分自身の「臨床的かかわり」を見つめることを通して、臨床活動を展開するということも重要な専門性です。

このような専門性を向上させる取り組みは個人だけではできません。同じ目的をもつ仲間とともに臨床活動を行うことによって、社会・文化の中に位置づけられた専門性の確立が可能になると思います。その点で、皆さんと一緒に新たな社会を創り出す一員として様々な活動に取り組んでいければと思います。

今後とも、どうぞご協力ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



一般社団法人
臨床発達心理士認定運営機構
日本臨床発達心理士会
幹事長 **莊巣 舜哉**

臨床発達心理士は、生涯続く発達の途上で心理的な困りごとを抱えている人たちに寄り添い、みんなの可能性を伸ばします。

日本は今、少子高齢化社会といわれていますが、支援を必要とする人が増え続けています。発達障害をもった子どもやその家族、独居を余儀なくされる高齢者や認知症の人たちはその代表でしょう。私たち臨床発達心理士はこのような困りをもった人たちに対してさまざまな支援プログラムを組み、共生の輪を広げてきました。

文部科学省は平成24年12月、学習面か行動面に著しい困難をもつ子どもが通常学級に6.5%在籍していると発表しました。10年前のデータと比較しても増加こそすれ、決して減少してはいません。教室の現場からみると、支援を要する児童・生徒が30～35人の1クラスに2～3人いることになり、学級崩壊にもつながりかねないゆゆしき事態なのです。

重要な事実があります。愛着の障害や虐待の被害など、直接的な原因を遺伝的素因に遡ることが難しい事例もありますが、先行研究が明らかにしているように、発達障害はその多くが遺伝的素因と結びついています。しかし興味深いことに、発達環境ともまた無関係ではありません。たとえばアメリカ疾病予防管理センターは2014年に、40歳以上の年齢の父親からは自閉症スペクトラム障害(ASD)の子どもが、30歳未満の父親よりも6倍もの高率で誕生するという報告をしていますし、注意欠陥多動性障害(ADHD)は低出生体重児と高い相関があります。遺伝と環境は互いに密接に関係していますから、母親の瘦せ願望や喫煙習慣も発達に困難さをもつ子どもの誕生につながる可能性を高めるのです。

このように発達現象は遺伝と環境の交互作用で進行します。だからこそ臨床発達心理士のもつ、障害に対する発達的な視座が重要になります。臨床発達心理士は発達に関わる問題を査定し、支援プログラムを組み、介入するという手法を用います。それは子どもから大人までの長い生涯発達の中で、発達科学的な観点に基づいた人の健やかな育ちを支援する試みなのです。介入はまた、当事者のQOL向上はもとより、家族・地域への広がりをもった支援を見通しておこないます。

このような発達上の様々な問題を解決するために、臨床発達心理士はチーム・プレイを重視します。医療機関や児童相談所、学校や保育園、老人養護施設や福祉事務所など、すべての機関およびそこで働く専門職の人たちと連携して弱者の味方になる、私たちはそういう資格のあり方を追求していきます。

一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構について

設立趣旨

臨床発達心理士の活動は、日本発達心理学会、日本感情心理学会、日本教育心理学会、日本パーソナリティ心理学会の関連諸学会によって2001年12月2日に学会連合資格『臨床発達心理士』認定運営機構として発足しました。2009年度からは日本発達心理学会、日本感情心理学会、日本教育心理学会、日本コミュニケーション障害学会の4学会連合とし、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構として登記しました。

本機構の目的は、以下のような発達の諸問題について深く理解し、適切な評価・支援技術を有する専門家としてのトレーニングを受けた臨床発達心理士を認定することです。

- 知的障害、学習障害など、発達臨床、発達障害の分野
- 「気になる子」のような健常と障害との境界領域
- 子育て支援、幼児・児童虐待、不登校などの現代的な問題
- 思春期、青年期の社会的適応
- 成人期、高齢期の生涯支援

また、本機構による臨床発達心理士の認定には次のような特徴があります。

- ◎ オープンで実質的な臨床技能を評価する認定システムである
- ◎ 大学院で本機構によって指定された科目を履修すれば誰でも受験資格が得られる
- ◎ 資格取得講習会の受講によって大学院での指定科目の履修に替えることができる
- ◎ 筆記試験と口述審査によって臨床発達心理学に関する知識と見識を評価している

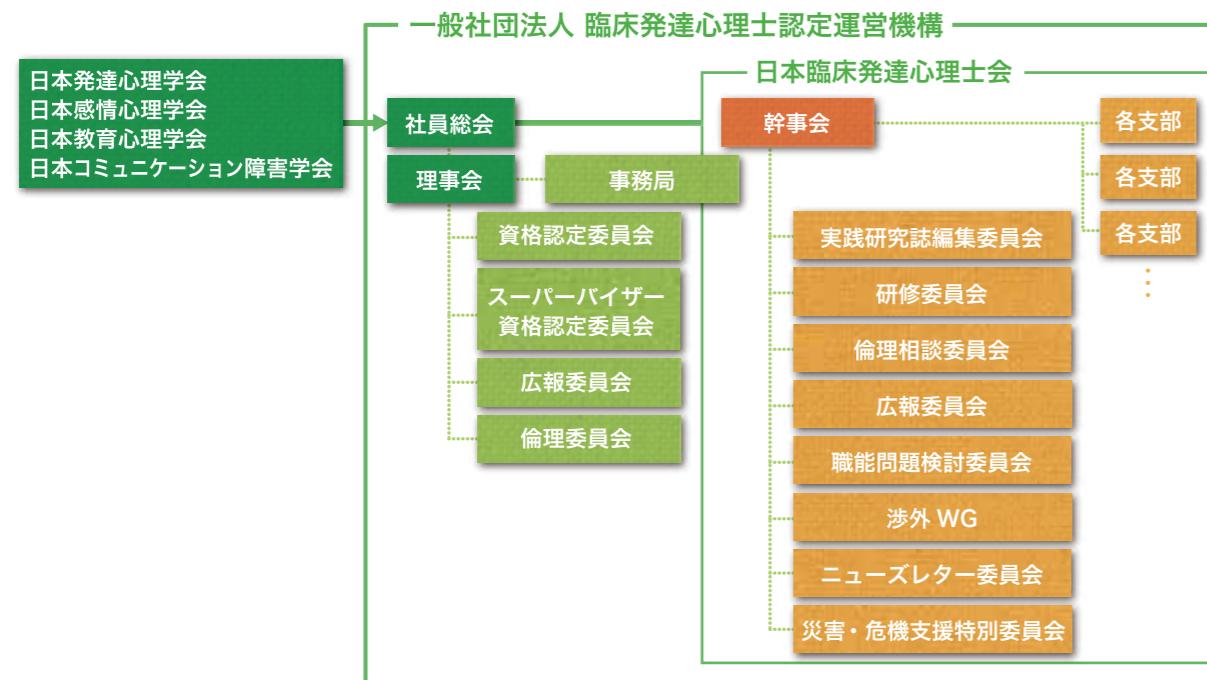
臨床発達心理士倫理綱領

一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構日本臨床発達心理士会では、臨床発達心理士の役割と任務の主旨にそって業務を行い、社会的な責任を果たすため、臨床発達心理士として考慮すべき事項を示した倫理綱領を定めています。

倫理綱領は、以下の項目からなっています。

- | | |
|-----|-----------------------|
| 第1条 | 人権の尊重 |
| 第2条 | 責任の保持 |
| 第3条 | 発達支援の実行における配慮と制約 |
| 第4条 | 秘密保持の厳守と守秘の例外 |
| 第5条 | 研修の義務とスーパーバイジョンを受ける責務 |
| 第6条 | 研究と公開 |
| 第7条 | 倫理の遵守 |

組織図



臨床発達心理士の資格認定

臨床発達心理士の認定は、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構が行っています。臨床発達心理士は発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。大学院修士課程修了者を中心とし、現職者や研究者も申請ができます。

申請のためには、大学院での指定科目の履修、あるいは資格認定委員会の開催する講習会の受講、臨床経験等いくつかの条件があります。詳しくは認定申請ガイドをご覧ください。

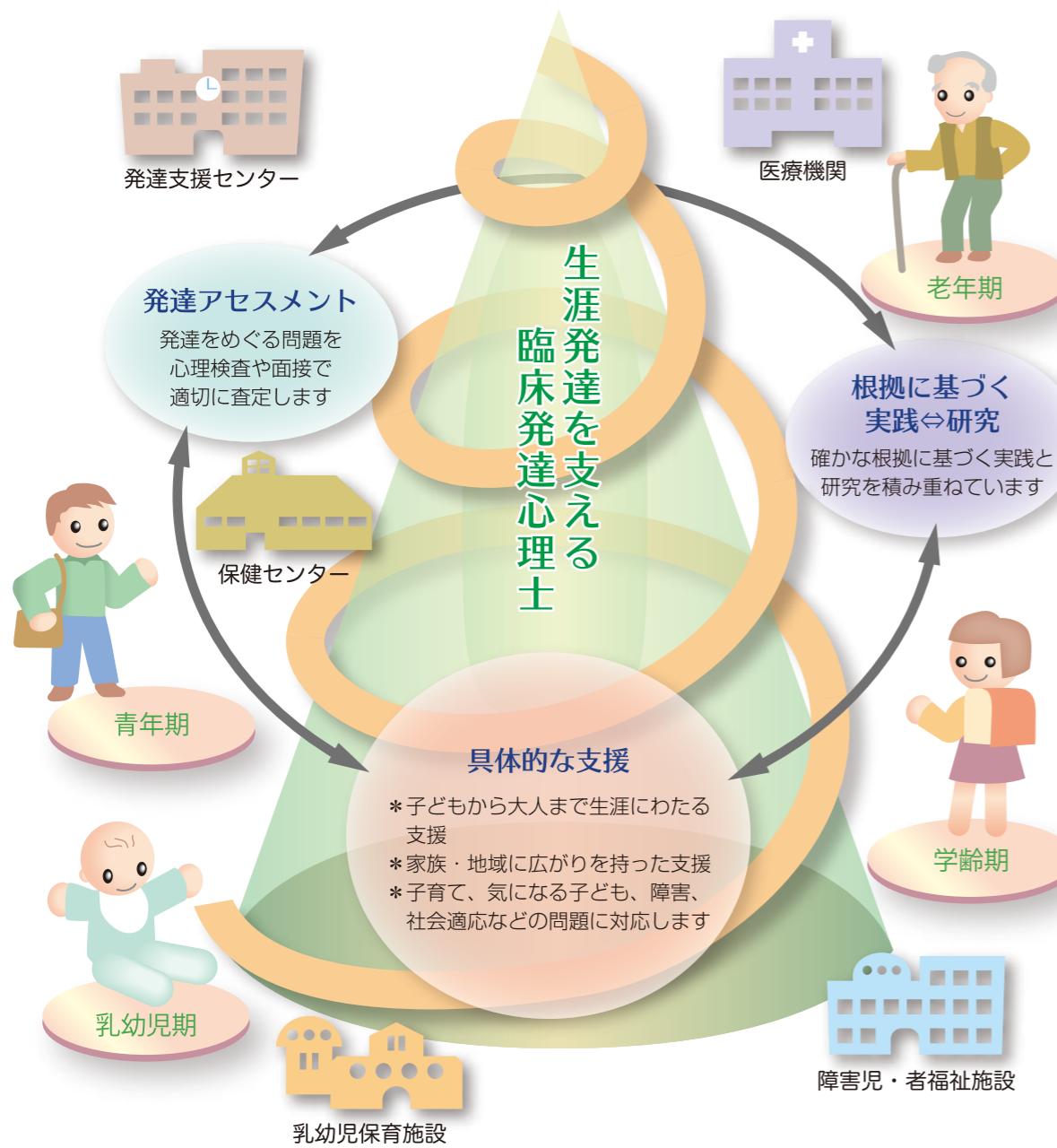
臨床発達心理士の数

臨床発達心理士の資格は2002年より認定が始まりました。2015年2月現在、臨床発達心理士の資格取得者は約3,800名となっています。

臨床発達心理士の活動

臨床発達心理士とは

人の健やかな育ちを支援する専門家です。
発達心理学をベースにし、"発達的観点"を持つところが特徴です。
発達の臨床に関わる幅広い専門家に開かれた資格です。



臨床発達心理士会・各支部の地域社会への貢献例

東京支部

文京区の公立小・中学校への巡回相談
都立高等学校（チャレンジスクールへの巡回相談）
軽度知的障害を対象とした特別支援学校高等部への支援

関西支部

地域公開セミナー（2010年度）
「自然体験キャンプ活動からみた発達支援のあり方」
「イギリスの自閉症教育見聞録」

災害支援

東日本大震災支援対策本部 びえろプロジェクト
現地支援活動、支援者支援研修
外部団体との連携、調査研究プロジェクト

臨床発達心理士の支援例

Aさんは5歳の男の子で、地域の幼稚園に通っています。しかし、幼稚園では「一つの活動に続けて取り組めない。また、言葉でのコミュニケーションがとれない」状況が続いており、幼稚園からの紹介で母親と一緒にクリニックにやってきました。Aさんの担当になった臨床発達心理士の先生は、まずプレイルームで自由に遊んでいるAさんの様子を観察することにしました。Aさんは、ボール投げ、人形、輪投げ・・・と次々に遊びを変えていきます。また、発達アセスメントを実施したところ、単語レベルでのやりとりは可能であることがわかりました。そこで、当面の目標を「一つの活動に最後まで取り組むことができる」と「『おねがい』という言葉を使って要求を伝えること」の二つにすることにしました。

一つの活動に最後まで取り組む支援としては、本人の好きな漫画のキャラクターの塗り絵や、持ちやすい太さのクレヨンを用意することにしました。また、「おねがい」と伝える支援としては、Aさんの大好きなくすぐり遊びをする前に、「おねがい」を表す絵カードを先生に差し出すように促し、手渡した後にすぐるようにしました。

10回のセッションの結果、塗り絵や8ピースのパズルなどは最後まで取り組むことができるようになりました。また、くすぐり遊びの中だけではなく、生活の中でも「おねがい」という言葉を話すようになりました。さらに、Aさんから「おかあさん」「せんせい」と呼びかけることもできてきました。

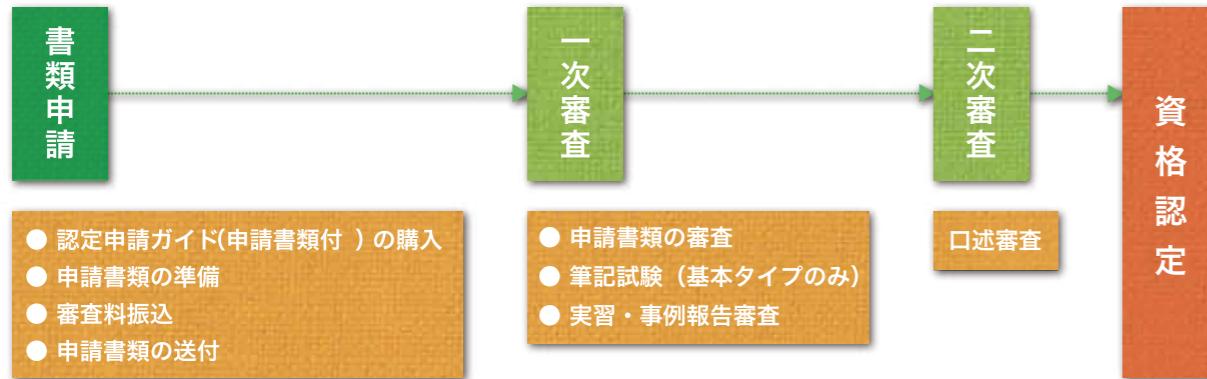
幼稚園でも塗り絵やパズルなどを用意してくれるようになり、Aさんも笑顔で通園できることが増えています。母親もAさんの育児に対して前向きに考えられるようになったそうです。



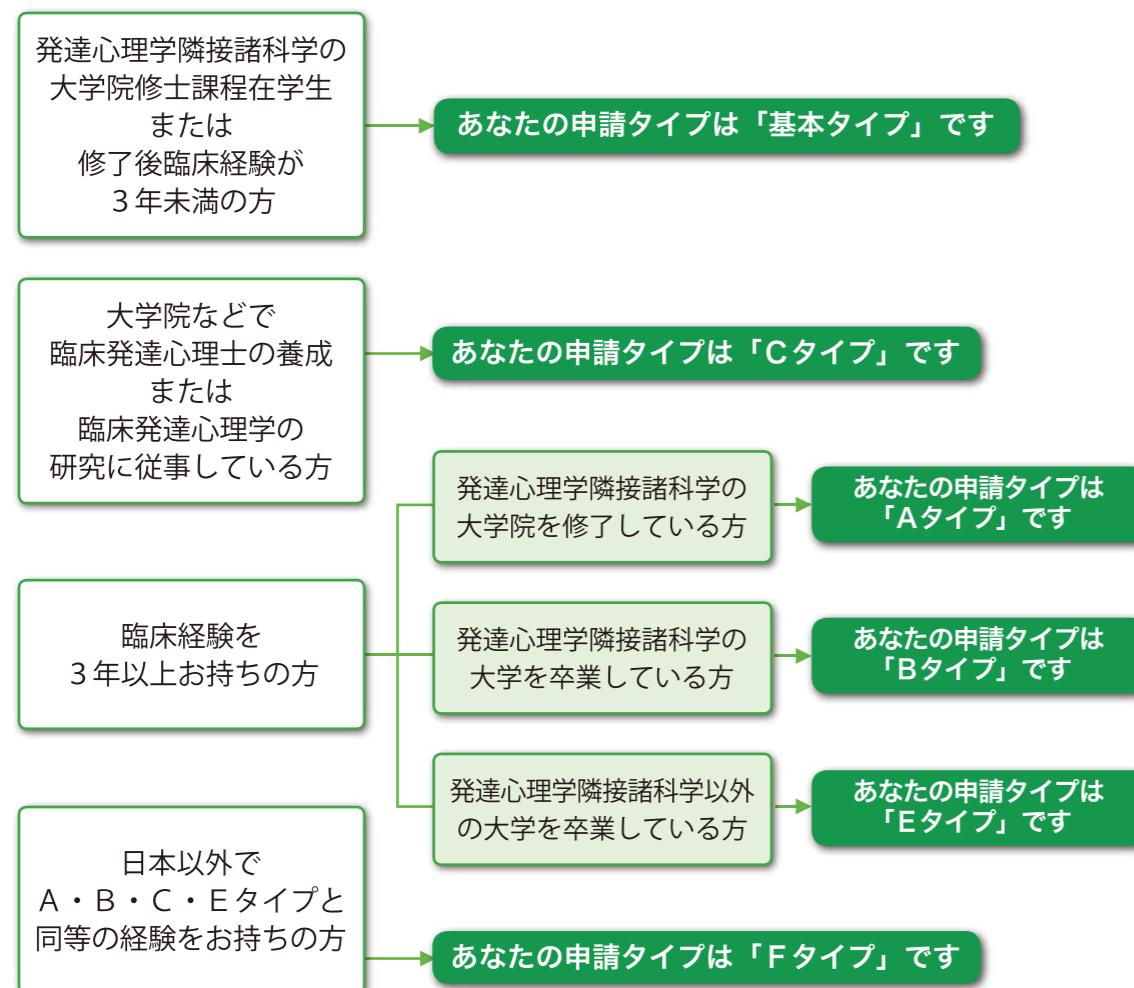
*実際の支援事例を参考にした架空のエピソードです

臨床発達心理士養成と資格法制化

臨床発達心理士の資格を取るには？



あなたの申請タイプは？



資格法制化に向けて

現在、心理職の国家資格化の検討が進行していますが、この資格の性格は、領域横断的な「汎用的」なものであることが日本心理学諸学会連合（日心連）の理事会（2009年12月）で確認されています。一方、虐待の増加、学力の低下、発達障害の増加など子どもたちの育ちの危機が指摘され、子どもたちの育ちの支援が喫緊の課題となっています。

このような状況の中で、国家資格・心理師に求められる専門性とは何でしょうか？私たち臨床発達心理士会は、2009年12月に他の15の関連学会・資格団体と共に、「教育・発達」心理資格連絡協議会を結成し、以下の点を各方面に主張してきました。

- (1) 心理学を基礎にしたカリキュラムであること。
- (2) 確かな支援方法（アセスメント及び支援技法）を習得し、当事者の方々にとって有用な専門性を有したカリキュラムであること。

特に、発達障害者支援法が平成16年に成立してから、新たな状況が生じています。その第二条には「発達支援」の定義が書かれています。

第二条 3

この法律において「発達支援」とは、発達障害者に対し、その心理機能の適正な発達を支援し、及び円滑な社会生活を促進するため行う発達障害の特性に対応した医療的、福祉的及び教育的援助をいう。

と明記され、医療・福祉・教育を横断する、心理機能の発達支援を「発達支援」と定義しています。

また、文科省の調査では、6.5%の児童生徒に学習面や行動面で著しい困難が認められ、特別な支援が必要なことが示されています。

この「発達支援」の方法としては、科学的な発達アセスメントに基づく支援技法の選択というプロセスが不可欠です。日本発達心理学会や日本教育心理学会、日本特殊教育学会、日本LD学会などは、この間、日本における発達障害に関する、アセスメントと支援の研究の中心的な役割を担ってきました。また臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士の計約1万人近くの有資格者の多くが、発達障害に関わっています。

そのために「教育・発達」心理関係学会および関連資格団体が心理国家資格の議論に参加するのは当然であり、また不可欠なことです。そして、そのことは、特別な支援が必要な人々とその家族を含む多くの国民に益するものと考えられます。

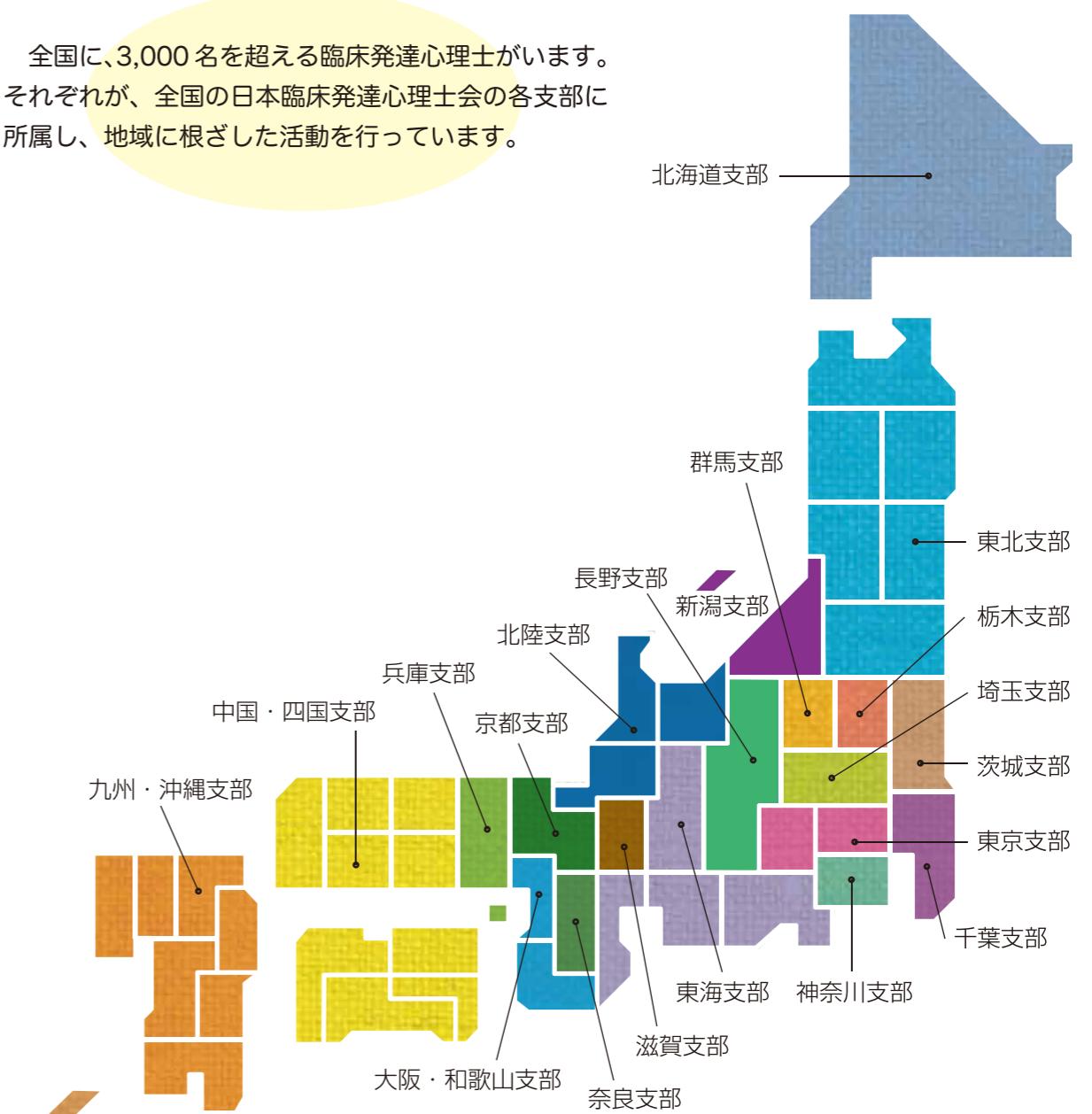
士会では国家資格の検討の動向を士会HP、「教育・発達」心理資格連絡協議会HPなどを通して、みなさんにお知らせし、またご意見をいただきたいと考えています。

臨床発達心理士認定運営機構の沿革と社会的活動

1996	5月～2002.3月 日本発達心理学会理事会は資格問題検討特別委員会において資格の基本方針・職能資格の内容運営システムを検討。	
2001	5月 日本発達心理学会、日本発達障害学会、日本感情心理学会、日本教育心理学会、日本LD学会、日本性格心理学会（現：日本パーソナリティ心理学会）による学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構設立準備委員会設立。	
2002	12月2日 日本発達心理学会、日本感情心理学会、日本教育心理学会、日本性格心理学会（現：日本パーソナリティ心理学会）による学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構発足。	
2003	9月 現職者および大学院修士課程修了者の認定（麻生武機構理事長）開始。	
2005	7月 臨床発達心理士会（本郷一夫幹事長）発足。 7支部（北海道・東北・関東・中部東海・関西・中国四国・九州沖縄）発足。	
2006	8月 第1回全国大会（青山学院大学：庄司順一大会長）実施。	
2007	5月 関東支部を7支部に分割して、東京支部、埼玉支部、千葉支部、神奈川支部、栃木支部、群馬支部、茨城支部が誕生し、全13支部となった。	8月 臨床発達心理学実践研究誌（三宅篤子編集委員長）発刊。
2009	5月 中部・東海支部を2支部に分割して、東海支部、北陸・信越支部が誕生し、全14支部となった。	9月 資格更新者認定（無藤隆機構理事長）開始。
2011	4月 一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構として組織変更。	6月 日本コミュニケーション障害学会（大井学理事長）が連合学会として法人に参加。
2013	8月 スーパーバイザー資格認定（子安増生機構代表理事）開始。	3月 関西支部を3支部に分割して、京都・滋賀・奈良支部、大阪・和歌山支部、兵庫支部が誕生し、全16支部となった。
2014	12月 東日本大震災支援対策本部設置。	4月 東日本大震災支援対策本部を新たに、日本臨床発達心理士会内の「災害・危機支援特別委員会」として発足。
2015	11月 テーマ別研究会発足。	9月 海外研修会実施（Wilmington TEACCH Center in Clinic Training）。
	12月 機構に資格試験委員会設立。	4月 京都・滋賀・奈良支部を3支部に分割して、京都支部、滋賀支部、奈良支部が誕生し全20支部になる。

各支部マップ

全国に、3,000名を超える臨床発達心理士がいます。
それぞれが、全国の日本臨床発達心理士会の各支部に所属し、地域に根ざした活動を行っています。



※ 2015年4月1日より